

非結核性抗酸菌症について

非結核性抗酸菌症とは？

非結核性抗酸菌とは、結核菌と同じ抗酸菌と呼ばれるグループに分類される菌で、水や土壌に生息する環境菌です。現在、約 170 種類が知られていますが、人に感染症を引き起こすものは約 20 種類あります。人から人には感染しないため、結核菌の性質とは異なります。

肺非結核性抗酸菌症では、病初期には症状がほとんどありませんが、病変が進行すると、慢性的な咳や痰、血痰、倦怠感、食欲不振、体重減少などの症状がみられるようになります。

治療薬について

非結核性抗酸菌症の治療薬には内服薬や注射薬があり、数種類の薬物を組み合わせた多剤併用療法が行われます。



肺 MAC(*Mycobacterium avium complex*)症

標準治療として、クラリスロマイシン、エタンブトール、リファンピシンの3剤併用療法が基本となり、必要に応じてストレプトマイシン、カナマイシンを併用します。

標準治療で改善が得られない場合にアミカシン（吸入）やシタフロキサシンを併用することがあります。

肺カンサシ(*Mycobacterium kansasii*)症

イソニアジド、リファンピシン、エタンブトールの併用を基本にした、多剤併用療法が行われます。

肺 *M. abscessus* 症

アミカシン(点滴)、イミペネム(点滴)、クラリスロマイシン、クロファジミンを併用する治療が行われます。点滴治療終了後は、クラリスロマイシン、クロファジミンに加えて、シタフロキサシンやファロペネムの併用が行われます。

★非結核性抗酸菌症に使われるお薬★

商品名 (一般名)	略号	剤形	形状(写真)	代表的な副作用
クラリシッド (クラリスロマイシン)	CAM	内服		肝障害、発疹、胃腸障害(食欲不振、吐き気など)、下痢
リファジン (リファンピシン)	RFP	内服		胃腸障害(食欲不振、吐き気など)、肝障害、アレルギー反応(発熱、発疹など)
ミコプティン (リファブチン)	RBT	内服		胃腸障害(食欲不振、吐き気など)、肝障害、アレルギー反応(発熱、発疹など)、ブドウ膜炎(目の痛み、視力低下、羞明、霧視など)
イスコチン (イソニアジド)	INH	内服		手足のしびれ、肝障害、アレルギー反応(発熱、発疹など)
エプトール (エタンプトール)	EB	内服		視神経障害(視力低下、視野の狭窄・欠損など)、アレルギー反応(発熱、発疹など)
グレースピット (シタフロキサシン)	STFX	内服		吐き気、下痢、めまい、頭痛、発疹
ジスロマック (アジスロマイシン)	AZM	内服		吐き気、下痢、めまい、発疹
ファロム (フロベナム)	FRPM	内服		下痢・軟便、胃腸障害(食欲不振、吐き気など)、発疹
ランブレン (クロファジミン)	CFZ	内服		胃腸障害(下痢、腹痛など)、皮膚着色 心電図異常(QT延長)
ストレプトマイシン (ストレプトマイシン)	SM	注射		腎障害、聴力障害、平衡覚障害、発疹、発熱
アミカシン (アミカシン)	AMK	注射		腎障害、聴力障害、発疹、発熱
チエナム (イミペネム)	IPM/CS	注射		発疹、下痢、胃腸障害(食欲不振、吐き気など)、けいれん
アリケイス (アミカシン)	AMK	吸入		発声障害、聴力障害、腎障害、咳嗽

保険適応に関しては各種添付文書やガイドラインを参照してください

2022年12月 東名古屋病院 薬剤部作成